

今回の公演は、その生誕250年記念の、そしてAOI・レジデンス・クワルテットならではのオール・ベートーヴェン・プログラムで行われます。「ガリツィン四重奏曲」と呼ばれる3曲の大曲(op.127、132、130)を一挙にお聴きいただきますが、実はベートーヴェンはこれらを一つの組にした「連作」として作曲した、と私は考えています。1曲目のop.127の第1楽章はオルガンのような高らかに荘厳な響きで開始。2曲目のop.132では中心の第3楽章に「病から癒えた者が神に感謝するリディア調の賛歌」と題された崇高な音楽が置かれ、3曲目op.130のフィナーレ「大フーガ」によってこの巨大な「連作」は締めくくられます。このように配置された要となる楽章の間には、充実した変奏曲やスケルツォ、舞曲などがちりばめられ、さらに各曲に共通するモチーフが全体の結びつきを強めます。

少々長いコンサートになりますが、この3曲をまとめて聴くチャンスはめったにありません。ホールの中の緩やかな時間の流れに身を置いて、じっくりと味わってください。すべてを聴き終えた後、まるで優れた長編小説を読み終えたあとの読後感を味わうかのような深い感動が訪れることを願い、その時を今からとても楽しみにしたいと思っています。

河野文昭(チェロ奏者、AOI・レジデンス・クワルテット メンバー)



松原勝也(ヴァイオリン)
Katsuya MATSUBARA (Vn.)

1963年、東京生まれ。東京藝術大学在学中に安宅賞受賞。クライスラー国際コンクール、ティボー・ヴァルガ国際コンクール等で上位入賞。新日本フィルハーモニー交響楽団コンサートマスターなどを歴任。無伴奏リサイタルシリーズ、ベートーヴェン弦楽四重奏曲全曲演奏、武満徹室内楽作品全曲演奏、新曲初演、ジャズ・ミュージシャンとのコラボレーション、即興演奏など幅広い活動を展開している。2007年にはロンドン・ウィグモアホールでリサイタルを開催。2001年から2010年まで第一生命ホールで行われた若い演奏家のためのアドヴェント・セミナー、北九州市立響ホールフェスティバルなどをプロデュース。2012年、東京・春・音楽祭において、J.S.バッハ：ゴルトベルク変奏曲の弦楽五重奏版を初演し、好評を得た。また、長崎OMURA室内合奏団の創立当初から共演を重ねており、現在では深い信頼関係を築いている。第17回中島健蔵音楽賞、第55回文化庁芸術祭新人賞受賞。AOI・レジデンス・クワルテットのメンバー、長崎OMURA室内合奏団アーティストティックアドバイザー、霧島国際音楽祭講師、東京藝術大学音楽学部教授。



川本嘉子(ヴァイオリン)
Yoshiko KAWAMOTO (Va.)

1992年、ジュネーブ国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門最高位(1位なしの2位)。96年、村松賞、97年、第7回新日鏡音楽賞、フレッシュアーティスト賞受賞。2015年、東燃ゼネラル音楽賞・奨励賞受賞。ソリスト・室内楽奏者として最も活躍しているヴァイオリン奏者の1人。京都アルティ弦楽四重奏団、AOI・レジデンス・クワルテットのメンバー。桐朋学園でヴァイオリンを江藤俊哉、鈴木愛子、室内楽を末吉保雄、原田幸一郎の各氏に師事。在学中より演奏活動を開始。91年、東京都交響楽団に入団をきっかけにヴァイオリンに転向。99年より2002年の退団まで首席奏者を務める。タンブルウッド、マルボロ、ダボス、東京の夏、霧島国際音楽祭、サイトウ・キネン・フェスティバル松本、別府アルグリッチ音楽祭等のフェスティバル、小澤征爾音楽塾、水戸室内管弦楽団等に参加。M.アルグリッチやY.バシュメットなどと共演し絶賛を博している。C.ミョンフンとも室内楽で日本・韓国公演を行った。ソリストとして、これまでにG.ベルティーニ、J.フルネ、P.マークなどの著名な指揮者と共演。2017年4月、NHK交響楽団の首席客演ヴァイオリン奏者に就任した。



小林美恵(ヴァイオリン)
Mie KOBAYASHI (Vn.)

東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、同大学で首席で卒業。在学中に安宅賞、福島賞を受賞。1990年、ロン＝ティボー国際コンクールヴァイオリン部門で日本人として初めて優勝。以来、国内外で日本を代表するヴァイオリニストとして活躍。これまでに、国内の主要オーケストラ、ハンガリー国立交響楽団、ブラハ交響楽団のソリストとして、充実した演奏を高く評価された。また、静岡のAOI・レジデンス・クワルテットのメンバーをはじめ、数多くの共演者と室内楽の分野においても活動を広げている。2010年には、ロン＝ティボー国際コンクールのヴァイオリン部門の審査員として招かれた。そのほか、フランス、イギリス、タイ、中国、韓国、ニュージーランド等でも公演を行い、洗練され、しかもダイナミックに奏でられる厚重な演奏は、多くの聴衆を魅了した。2015年はデビュー25周年を迎え、2017年までに6回の記念リサイタルシリーズを好演。2018年2月からは、Hakuju Hallにて「小林美恵 華麗なるヴァイオリンの伝説」(全6回)を公演中。CDは、「プレイズ・クライスラー」、ツィゴイネルワイゼンなどを収録した「ヴァイオリン名曲集」、「J.S.バッハ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ&パルティータ(全曲)」など多数録音している。現在、昭和音楽大学客員教授。

オフィシャルHP <http://miekobayashi.com/>



河野文昭(チェロ)
Fumiaki KONO (Vc.)

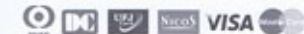
京都市立芸術大学卒業。1982年に文化庁在外派遣研究員としてロサンゼルスで、その後、ウィーン国立音楽大学にて研鑽を重ねる。黒沼俊夫、G.ライター、A.ナヴァラの各氏に師事。84年、帰国後は独奏者としてリサイタルやオーケストラとの共演を重ね、フィンランドの作曲家、J.コッコネンのチェロ協奏曲やイタリアのL.ペリオの無伴奏曲(セクエンツァIV)などを本邦初演する。また、室内楽演奏にも積極的に打ち込み、現在、アンサンブル of トウキョウ、紀尾井シンフォニエッタ東京、AOI・レジデンス・クワルテット、東京クライスアンサンブルなどのメンバーとして、国内外に幅広く演奏活動を行っている。第50回日本音楽コンクールチェロ部門第1位(81)、大阪府文化祭賞(92)、京都府文化賞功労賞(2004)等を受賞。平成29年度京都市文化功労者。現在、東京藝術大学教授として後進の指導にもあたっている。

講演会 “この1曲”をとことん語る

10/7(水) 19:00~20:30
L.v.ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第13番 変ロ長調 op.130(大フーガ op.133 付)
講師：竹内啓(静岡音楽館AOI学芸員)
静岡音楽館AOI 講堂(7階) 無料(要申込)

静岡音楽館AOI・インフォメーション(7F)
Tel.054-251-2200(月休)

- * 受付時間9:00~21:30(休館日を除く)。発売初日のみ電話予約は13:00より。
- * お電話予約の際の座席の指定はご遠慮ください。
- * 一般券以外は、静岡音楽館AOIのみでお取扱いします。
- * クレジットカードでお支払いいただけます。

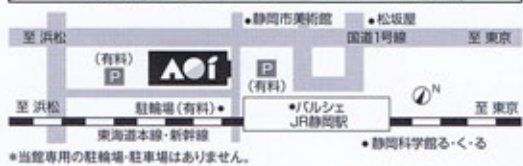


静岡リビング新聞社 Tel.054-255-1231(土・日・祝休)
チケットぴあ(Pコード：162-089) Tel.0570-02-9999
ペイドリーム清水店、アクトシティ浜松、ららぽーと静岡、セブン-イレブン
ファミリーマート(一部地域・店舗を除く)など

次のことを予めご了承の上、チケットをお求めください。
皆様のご理解・ご協力をお願い致します。

- * 価格は税込です。
- * 都合により内容を変更する場合があります。
- * お客様のご都合によるチケット代の返金、座席の変更は致しかねます。
- * 場内での飲食、写真撮影、録音、録画は固くお断り致します。
- * 携帯電話、アラーム付時計等の使用はご遠慮ください。
- * 演奏中のご入場はお控えください。
- * 静岡音楽館AOIは、施設構造上、会場準備が整わない状態(開場時間前)で、お客様8階ホールへご案内することができないため、通常エレベーターは7階止となっております。開場時間になるまで1階エレベーター前か、7階ロビーでお待ちください。1階エレベーター前でお待ちいただいたお客様を最優先してご案内いたします。
- * 他のお客様の鑑賞の妨げとなる行為は固くお断りいたします。
- * 未就学児はご入場いただけません。

JR静岡駅北口を出てすぐ左 静岡中央郵便局 合同建物内



東京・名古屋から新幹線ひかり号で約1時間!
CONCERT HALL SHIZUOKA
静岡音楽館 AOI

開館 9:00~21:30 月曜日休館(ただし祝日開館、翌平日休館)
〒420-0851 静岡市東区黒金町1番地の9

TEL 054-251-2200 AOI 検索



チケットお取扱い

一般発売 6月20日[土]より
会員先行発売 6月13日[土]より

託児サービス
要事前予約(1週間前まで)・託児料：1人1,000円
すわん Tel./Fax.054-255-5377
(火~金 10:00~15:00)
e-mail: swan@xqj.biglobe.ne.jp
留守番電話の場合は、お名前・お電話番号を録音してください。